

## EGFR 遺伝子変異陽性肺癌患者におけるアファチニブの耐性 機序を検討する観察研究

EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対して、標準治療薬である第 2 世代 EGFR-TKI の Afatinib での治療を開始され、病勢進行(PD)が認められた患者の中で、再生検による腫瘍検体からの遺伝子検査により T790M が陽性となる割合を検討する。

一次治療薬としての Afatinib に対する耐性出現後、再生検による腫瘍検体から、T790M が認められる割合を観察する多施設共同研究を実施する。一次治療としての Afatinib が投与された後に PD となり、PD 時の再生検による遺伝子診断として T790M 変異検出検査を施行した症例を集積し解析を行う。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。